

地域づくりWGのミッション

- 地域づくり(都市構造・土地利用、都市交通、都市・農村連携など)分野の関連政策における、低炭素社会形成に関する道筋の提案
- 上記道筋の提案に際しては、地域の自然的社会的条件に応じた、生活の質の向上を伴った低炭素地域づくりを念頭に置く。
- 政策推進の根拠となる、(温室効果ガスの)中長期削減目標の達成に向け、地域(地方公共団体)に期待される役割を明らかにしつつ、地域づくり分野のロードマップを作成。

ロードマップの構成要素

- 2050年におけるビジョン(Vision)、目標値(Benchmark)とそれを実現するための定量的道筋
- 2020年までに取り得る対策とその削減効果の定量化
- それぞれの対策を実行するための障壁(Barrier)、障壁を克服するための施策(Policy Options)、対策や施策の導入費用など
- 都市と農村との連携に着目した農村SWGの検討内容との整合
- 地域の取り組みを尊重したロードマップなどのまとめ

検討手順(案)

① 検討対象分野における**将来像**と**主要対策**の検討



② 主要対策に対応した**目標指標の選定**及び**目標値の設定**



③ 目標の実現に対する**障壁**とそれを克服するための**具体的施策**の検討



④ 施策の展開スケジュールと活動量などの指標の経年推移をもとにした**ロードマップ化**



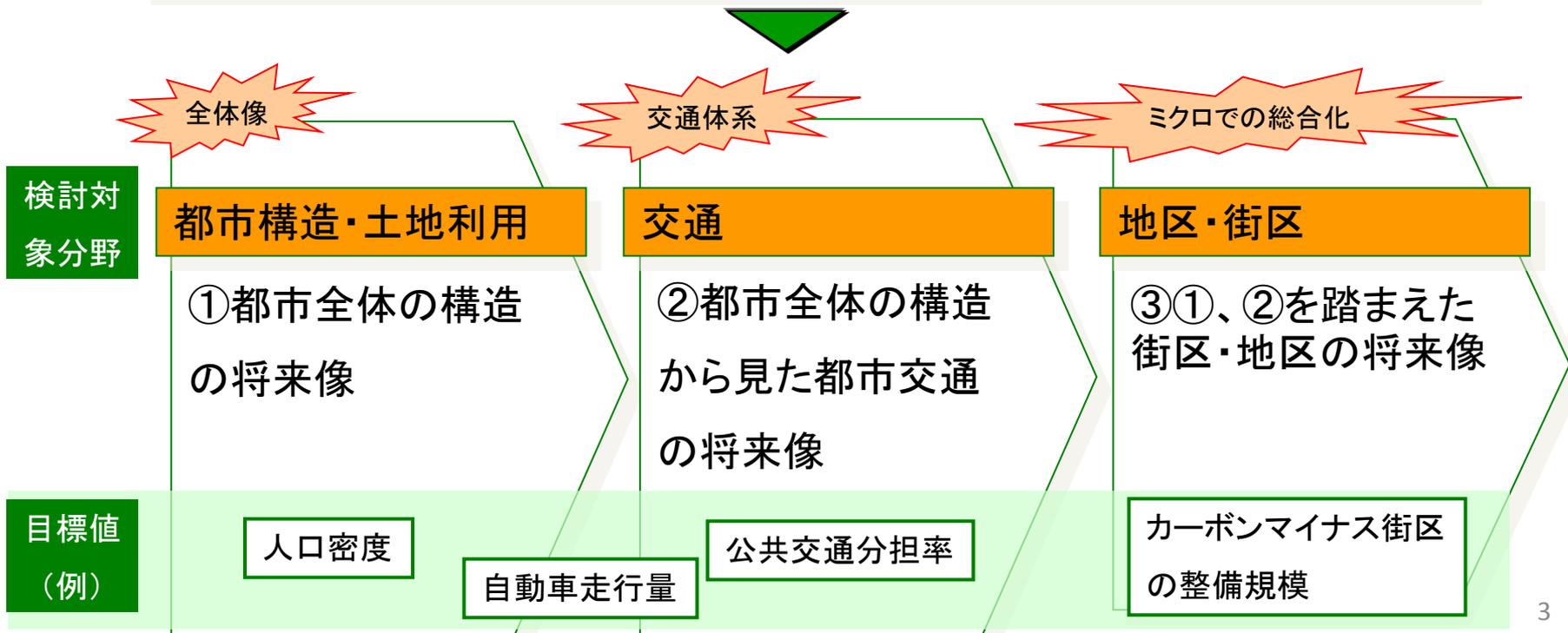
⑤ 施策の実効性を高めるための**関連分野の政策**との**効果的な連携方策**の検討

検討対象分野

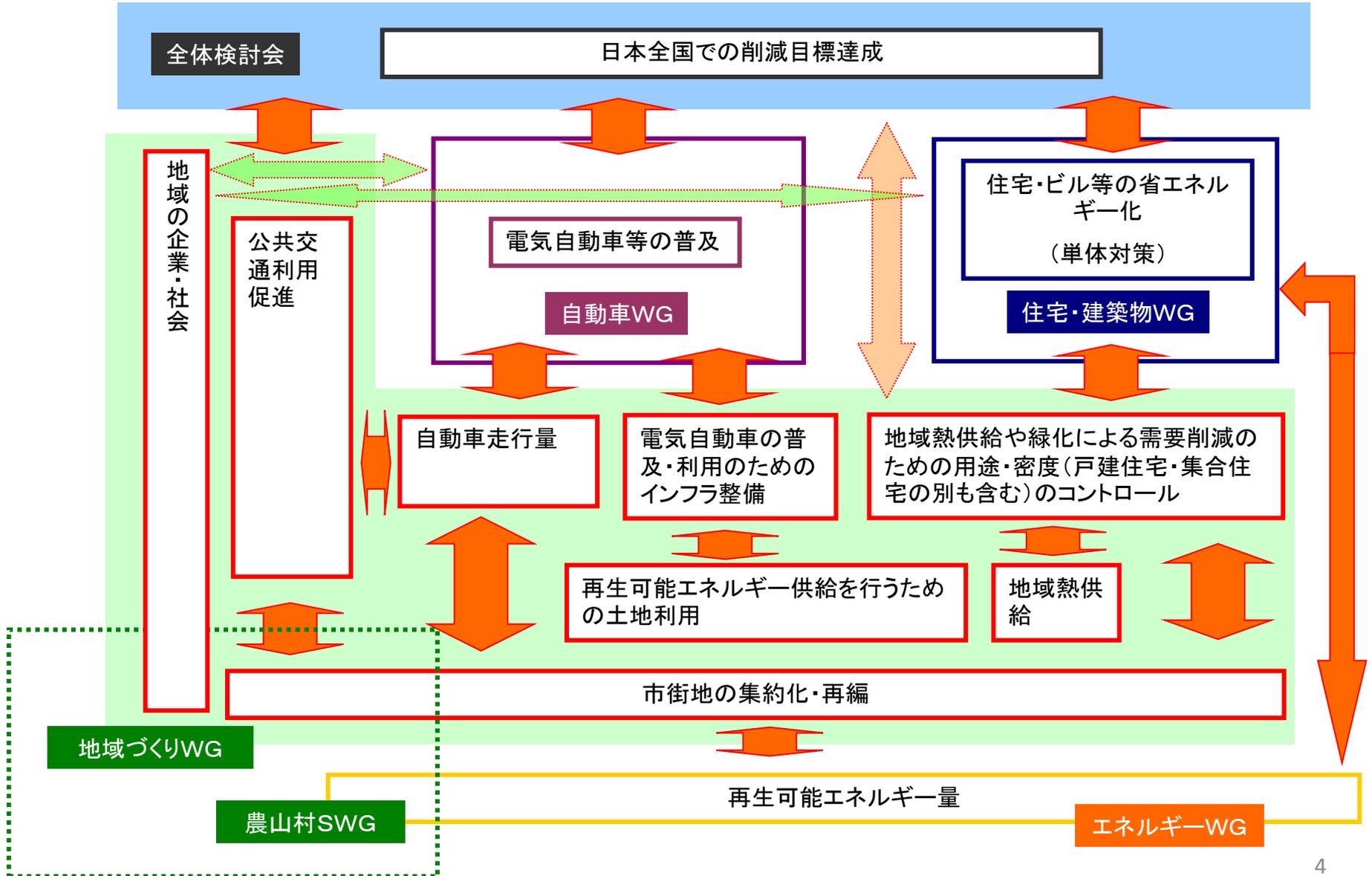
都市構造・土地利用、交通、地区・街区の3分野

検討対象分野のつながり(検討ロジック)

2050年を目標時点とすると、都市全体の構造を大胆に変える発想を持ちえることから、都市全体の構造のあるべき姿を起点として、都市交通体系のあり方、街区・地区単位の具体的なイメージとその対策・施策を検討とする流れとする。



地域づくりWGから見た各分野との関係



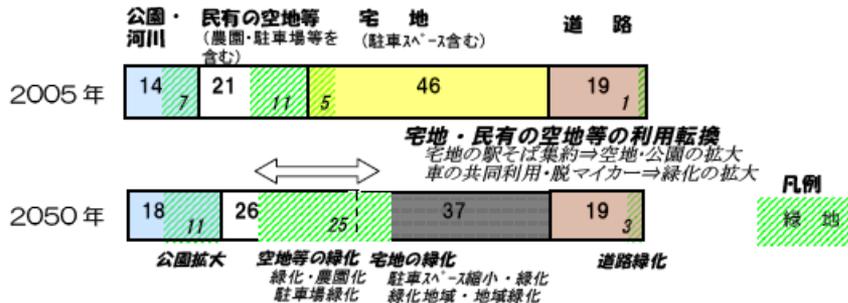
地域づくりWGでの温室効果ガス削減の全体見取り図(概要)

※下記に例示する効果が、地域づくりWGの成果によって上乗せされる削減量

		活動量の適正化 (例)	従来削減量として把握できてい なかったもの(例)	他分野の対策の底上げを図るもの(例)
土地利用・ 交通分野	運輸部門	●自動車走行量の削減		
	家庭・業 務・産業部 門	●床面積(商業床等) の適正化		●エネルギーの面的利用の導入可能面積 の増加 ●郊外の縮退による再生可能エネルギー の導入可能面積の増加 ●駐車場・道路等の自動車関連スペースの 削減による緑地等面積の増加
地区・街区 の対策分野	運輸部門			●電気自動車の普及・利用のためのイン フラ・市街地整備
	家庭・業 務・産業部 門	●人口減少等を踏ま えた床面積の適正化 (安易な容積緩和等 の是正など)	●緑地の保全・緑化、水面の復 活、風の道の確保、工場廃熱の 有効利用等による気候緩和効 果に伴う空調負荷削減	●エネルギーの面的利用の促進 ●再生可能エネルギーの利用効率の増 加(日照条件を良くするための建築物の 高さの統一等)

緑被率40%に向けて

徒歩圏(駅そば生活圏)には多くの駐車場があります。
「歩いて暮らせる駅そば生活」の実現に合わせて、脱マイカー利用やカーシェアリング・共同駐車
場・集配など自動車と駐車場の利用を考え直すことで、2050年に緑豊かな都市を実現すること
も可能ではないでしょうか。



名古屋市では、集約型都市構造の実
現(駅そば生活)によって、自動車利用
を減らすとともに、自動車関連スペ
ース(駐車場、車道)を削減して緑地に充
てることが計画されている(「低炭素都
市2050なごや戦略」平成21年11月)

地域の取り組みを尊重したロードマップのまとめ方の方針(案)

- 低炭素社会の構築に当たっては、様々な課題や資源を持つ地域がその特徴に基づいて独自の工夫を進める必要がある。
- そこで、ロードマップの作成にあたっては、地域づくり分野における低炭素社会の形成のロードマップをベースにしながら、例えば、今後の都市計画上の主要課題(メガトレンド)別にアレンジできるようにすることはどうか。

今後の都市計画上の課題

- 人口減少・高齢化(人口構成変化対応型)
 - 都市・農村交流(農山村一次資源活用型)
 - 製造業からサービス業(研究開発含む)への転換(産業構造転換対応型)
- また、地域づくりWGで検討するテーマ以外にも、地域が主体的に進めていくべき工夫については、他のWGのロードマップが揃った段階で提示し、意見を収集する。

人口規模等の特性から見た都市計画上の主要課題

	大都市	中規模都市	農村後背地を持つ小規模市町村
人口構成変化対応型	都心部の高齢化対応 郊外の人口減少対応	高齢化と人口減少の同時進行への対応	交流・定住人口の拡大
農山村一次資源活用型	自然・バイオマス資源(低未利用地も含む)の活用 (都市内交通)	コンパクト化に対応した周辺農山村との交流 (地域内交通)	都市・地域を超えた交流(地域間交通・貨物)
産業構造転換対応型	製造業からサービス業へ サービス産業高度化	製造業からサービス業へ、知的資源活用へ	地域資源を活用した交流促進による需要創出

地域の取り組みを尊重したロードマップのまとめ方(例)

- 産業構造の転換によって発生する未利用地を有効に活用した、街区・拠点・交通網整備に関するロードマップにアレンジする。
 - 再生可能エネルギーの賦存量が多い地域では、拠点的な街区に優先的・集中的に供給するインセンティブを導入することで、次世代エネルギー供給インフラの整備を促進するようなロードマップにする。
 - 交通弱者に対する交通サービスを自治体主導で進める場合の促進策に着目したロードマップにする。
- など